

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207827		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 湯の里		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199番地70		
自己評価作成日	令和3年12月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・広い庭園で新緑とつづじを眺めながらの会食、秋は紅葉を楽しみながらタンボ会を行うなど、四季の移り変わりを感じながら、利用者がのびのびと過ごしていただくよう取り組んでいる。 ・自然豊かな温泉地でホームにも温泉が引かれ、毎日温泉浴を楽しんでいる。また、清拭等を行うことで清潔保持にも努めている。 ・行事や作品作りなど利用者と職員が一緒に行うことで、できることを探し、個人の意欲や個性を尊重しながら支援を行っている。 ・秋になると当ホーム系列の畑に行き、栗、柿の収穫を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>両ユニット共、贅沢な天然の温泉で、樹齢数十年の松や庭石で構成された本格的な日本庭園を眺めながら、ゆったりと温泉につかることが出来る。広いベランダに腰掛け、リスやタヌキ、キジ等も現れる自然豊かな四季の移ろいを満喫できる。当日の昼食は、だまこ、じゅんさい、いぶりがっこ(ナタ漬)。スタッフも共に広い食卓を囲み、和気あいあい。「おいしいのでいつでも来て」との利用者の声。家族からもスタッフからも食事は自慢とのこと。緊急連絡網に3名の近隣住民が名を連ね、電話連絡で避難訓練に駆けつけてくれる。「スタッフがいつも明るく、親切で親身なのでとても行きやすい。親身になって対応してくれるのでこのホームで良かった。」と家族から好評である。ホーム理念のキャッチフレーズ「あかるく やさしく あたたかく」を現実に行っているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は玄関に、ホームの目標は玄関、事務所に掲げ、理念にそったサービス提供が図れるよう心がけている。	数年前により分かりやすいようホームの理念を見直している。「あかるく やさしく あたたく」とのキャッチフレーズの下に、3行の文章で構成されたグループホームらしい理念である。「法人の理念」「上手な介護12カ条」「介護の心構え」「自尊心を高めるコミュニケーション」が壁に掲示されている。ホームの理念は、「生活していく目安！」との言葉が印象的であった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症防止の為、地域との交流が取りにくい状況となっている。	三種町の花火大会に連れ立って出かけている。打ち上げ花火の音がホームまで響き、上がる花火がホームからも見えるとのこと。地元の中学生在が体験学習で訪問し交流している。りんご農家からの嬉しいりんごの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症防止の為、地域との交流が取りにくい状況となっているが、グループホームへの関心や相談などに真摯に対応し、地域に開かれた事業所となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症防止の為、運営推進会議は資料にて対応している。資料には利用状況、活動状況等を記載してホームの状況をお知らせしている。	家族代表、地域包括支援センター、町担当者が参加メンバーとのこと。コロナ禍であり、紙面を送付して2か月毎に運営推進会議を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは電話で情報交換し、指導や協力を受けながらサービスの提供に務めている。	生活保護受給に関し、福祉事務所及び町の担当者との連絡調整を密にしている。担当者がホームを訪問し、本人やスタッフと情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がカンファレンス等で話し合っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する適正化委員会が定期的に開催され、その内容が全スタッフに周知されている。現在対象者は皆無。関連する全ての関係書類が整備されていることを確認した。	身体拘束防止に関する関係書類が数冊に分かれているが、索引等を工夫することで1冊に綴じ、必要に応じ、すぐに取り出せるよう工夫するよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会があり、ホーム内での虐待は勿論、自宅での虐待がないか本人の表情や身体を観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この事業や制度を利用している利用者はいないが、管理者や職員は研修等で学ぶ機会があり、必要な人には、活用できるよう支援することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明をしている。利用料等の改定時は口頭や文書により十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を話せる雰囲気作りを努めている。	町の体育館を利用している、法人内の7ヶ所のグループホーム合同の運動会には、家族も含め100名を超える参加者で、大いに楽しむ様子が想像できる。利用料の支払いに家族が毎月訪問しており、コミュニケーションを図る大事な機会とのこと。「スタッフがいつも明るく、親切で親身なのでとても行きやすい。親身になって対応してくれるのでこのホームで良かった。」と家族から好評である。ホーム理念のキャッチフレーズである「あかるくやさしく あたたかく」を現実に行っているホームである。	玄関に掲げている5ヶ所の苦情受付窓口について、表示の順番をより分かりやすいよう、ホームなりに再検討するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員からの意見、要望等を管理者会議で運営者に報告し、積極的に運営に反映させている。	修繕や物品購入希望はもちろんのこと、些細なことでも気兼ねなくスタッフ間で話し合われていることが、スタッフ会議録から確認できた。子育て等々、スタッフ個別の事情を考慮した働きやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々がやりがいや向上心を持って働けるようにしている。職場環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修計画を策定し、全職員が研修を受ける機会を設け実施している。資格の取得にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりができています。また、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで本人や家族と十分な面接を行い、検討を重ねて対応している。信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、要望等を十分傾聴し、その後の本人及び家族の不安の解消に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等の参加を促したり、家族との情報交換を密にしたり、月1回のおたより、電話等で近況報告をしたり、利用者を支える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話やお便り等で近況報告をしたり、利用者を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出やドライブ時は自宅の前を通ったりしながら馴染みの人や場所の関係が途切れないように努めている。	コロナ禍のため、オンライン面会が出来るよう整備し、家族に案内したが、オンライン面会の希望者がいない状況。馴染みの美容室へ家族が付き添い、送迎してくれている。通院等の帰りにあえて自宅周辺をドライブするよう配慮している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の十分な把握に努め、職員が間に入り利用者とのコミュニケーションをとり、支え合えるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も困っている時は相談に応じ、本人、家族との関係を大切にしている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活のリズムを把握し利用者の希望や意向の把握に努めている。	洋裁の得意な利用者が雑巾縫いをしてくれたり、書道の先生だった利用者が書を楽しんだりしている。食器拭きや山菜の下ごしらえ等々、利用者各々がホーム内のそれぞれの役割を担っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活環境やホームの生活で本人の思いや生きがい等を検討し、すべての職員が理解するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの過ごし方や心身状態を把握しており、本人の有する力が発揮できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームで作る介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの意見、要望等をサービス担当者会議において話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ会議で、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、意見や気づきを出し合っている。毎月の家族訪問時に声かけし、聞き取りした内容を反映させ、より現状に即した計画になるよう努めている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子等を記録しており、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要に応じて、豊かな暮らしを楽しんでいただくよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで通院付き添いしているが、必要に応じ家族に同行してもらっている。利用者各々が以前のかかりつけ医を利用している。月2回の訪問看護が利用できる。	道路向かいに、リハビリテーション科・内科・循環器内科・歯科を有する協力病院である森岳温泉病院があり、その存在は心強い。かかりつけ薬局とは気軽になんでも相談でき、配達もしてくれるとのこと。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を築いており、看護職員に利用者の状態を報告し、また、アドバイスをいただきながら状態の把握に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態把握を行うため、担当医師、看護師から情報提供を受けている。また、必要があればホームでの状況等の情報を提供し、協力できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームでできることを利用者、家族に説明しており理解していただいている。急変時は、職員全員が対応できるよう話し合っている。	今まで看取りの経験はないが、出来る限りホームでの生活を継続させたいのがホームの意向である。早朝や夜間に急変した場合は、厚生医療センターへ救急車を要請し搬送することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救急講習を受講し、初期対応や応急手当ができるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、消火、通報、総合訓練を実施しており、全職員が災害時の避難方法を心得ている。地域の方々が避難訓練に参加して下さっている。	小高い位置にあるホームは、津波や水害のリスクは無い。一時避難所はホーム庭園、かつて第2避難所まで移動した経緯があるも、利用者と移動する困難さを経験している。緊急連絡網に3名の近隣住民が名を連ね、電話連絡で避難訓練に駆けつけてくれている。各居室には、応援に駆けつけた住民や消防署員でも一目で分かるよう「自歩(自立歩行可能)」等の表示があり、スタッフ間で考えた表示である。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	トイレにはカーテンが併設され、排泄の際はカーテン越しに様子が確認できるよう工夫している。「上手な介護12カ条」「介護の心構え」「自尊心を高めるコミュニケーション」がホールの見やすい位置に掲示されており、人格やプライバシーに配慮する重要性を理解していることがうなづける。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の行動、会話の中からその人の思いや希望を汲み取れるよう努めている。本人の思いや希望を大切に、自己決定できるように働きかけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操、水分補給等はおよその時間を決めているが、その他は本人の意思を尊重し対応している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を取入れながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立の確認をしたり、出来る範囲内でテーブル拭き等をお願いしている。	調理の専任者が配置され彩りも良く、完食する利用者も多く、おかわりする方もいるとのこと。当日は、だまこ、じゅんさい、いぶりがっこ(ナタ漬け)等が提供されていた。スタッフも共に広い食卓を囲み、和気あいあいとした雰囲気「おいしいのでいつでも来て」と話す利用者もあり、家族からもスタッフからも食事は自慢との声が聞かれた。広々とした庭園で野外食を楽しむことが出来る。道の駅で食材を吟味し、ホームで鍋を楽しむこともある。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや必要量を考慮し食事を提供している。バランスを考慮したメニュー作りを心がけている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。援助の必要な利用者は職員と一緒にっており、コップ、歯ブラシ等の清潔保持にも努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、安心して排泄できるよう努めている。できるだけおむつに頼らない自立にむけた支援に努めている。	トイレは介助するに十分な広さである。夏の蒸れ対策のためと布パンツに変更できた事例が確認できた。声かけやカーテンを工夫し、個々に応じた排泄の自立に取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を促している。飲食物にも考慮しながら取り組んでいる。また、医師の指導の下、薬の服用を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	両ユニット共、贅沢な天然の温泉。樹齢数十年の松や庭石で構成された本格的な日本庭園を眺めながら、ゆったりと温泉につかることが出来る。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してゆっくり休めるよう日中の活動を促している。また、薬の服用については、医師の指導の下行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作り、一人ひとりの薬の目的や副作用等を全員で理解している。服用による症状の変化等はその都度、かかりつけ医に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内で洗濯たたみや新聞折り等を行っていただいている。ドライブやレクリエーションで気分転換を図ったり、水分補給時に好みの飲み物が摂れるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの庭を散歩したり、ドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している。	菜の花ロード、能代公園の桜やつつじ、ニツ井きみまち阪、八竜釜谷浜のサンドクラフト等々ドライブを楽しんでいる。お重の手作り弁当を外出先で食べたり、目的地での鍋っこも楽しんでいる。ホーム周囲の散歩は、交通量が少なく絶好の散歩コースとなっている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人や家族の希望でホーム管理になっているが必要に応じて買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや本人が電話をかけたいと希望する時は希望に沿い支援している。手紙のやり取りもできるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気心がけ、玄関、ホールには季節の飾付けや花などで居心地よく過ごせるよう工夫している。また、清潔を保ち不快感がないよう努めている。	元保養所だった湯のはな棟は、実に広々とした空間である。広いベランダに腰掛け、リスやタヌキ、キジ等も現れる自然豊かな四季の移ろいを満喫できる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自由に過ごせるようソファとテーブルがあり利用者同士また職員と一緒にお茶を飲んだり思い思いに過ごせるよう居場所の工夫に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用した馴染みの物を使用している。利用者一人ひとりの認知症状、ADLに合わせた居室作りになっている。在宅での生活が継続できるよう工夫している。	各居室がとても広く、本格的な日本庭園や四季折々の風景が楽しめる。ひ孫や家族の写真が居室の壁に沢山飾られていた。エアコンが完備されているが、冬は居室のエアコンを利用しなくても暖かい。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわからない利用者には場所を表示し、混乱や失敗がないように声かけや見守りをしながら、自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は玄関に、ホームの目標は玄関、事務所に掲げ、理念にそったサービス提供が図れるよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症防止の為、地域との交流が取りにくい状況となっているが、グループホームへの関心や相談などに真摯に対応し、地域に開かれた事業所となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症防止の為、地域との交流が取りにくい状況となっているが、認知症の人の理解や支援の方法を伝える努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症防止の為、運営推進会議は資料にて対応している。資料には利用状況、活動状況等を記載してホームの状況をお知らせしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と電話で情報交換し、指導や協力を受けながらサービスの提供に務めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がカンファレンス等で話し合っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会があり、ホーム内での虐待は勿論、自宅での虐待がないか本人の表情や身体を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この事業や制度を利用している利用者はいません。管理者や職員は研修等で学ぶ機会があり、必要な人には、活用できるよう支援することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明をしている。利用料等の改定時は口頭や文書により十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を話せる雰囲気作りに努めている。家族が遠方にいる方も電話等で意見を聴く努力、配慮をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員からの意見、要望等を管理者会議で運営者に報告し、積極的に運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々がやりがいや向上心を持って働けるようにしている。職場環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修計画を策定し、全職員が研修を受ける機会を設け実施している。資格の取得にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりができています。また、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで本人や家族と十分な面接を行い、検討を重ねて対応している。信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、要望等を十分傾聴し、その後の本人及び家族の不安の解消に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
18		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話やお便り等で近況報告をしたり、利用者を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出やドライブ時は自宅の前を通ったりしながら馴染みの人や場所の関係が途切れないように務めている。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の十分な把握に努め、職員が間に入り利用者とのコミュニケーションをとり、支え合えるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も困っている時は相談に応じ、本人、家族との関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活のリズムを把握し利用者の希望や意向の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活環境やホームの生活で本人の思いや生きがい等を検討し、すべての職員が理解するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの過ごし方や心身状態を把握しており、本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームで作る介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの意見、要望等をサービス担当者会議において話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子等を記録しており、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要に応じて、豊かな暮らしを楽しんでいただくよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで通院付き添いしているが、必要に応じて家族に同行してもらっている。利用者各々が以前のかかりつけ医を利用している。月2回の訪問看護が利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を築いており、看護職員に利用者の状態を報告し、また、アドバイスをいただきながら状態の把握に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態把握を行うため、担当医師、看護師から情報提供を受けている。また、必要があればホームでの状況等の情報を提供し、協力できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームでできることを利用者、家族に説明しており理解していただいている。急変時は、職員全員が対応できるよう話し合っている。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救急講習を受講し、初期対応や応急手当ができるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、消火、通報、総合訓練を実施しており、全職員が災害時の避難方法を心得ている。地域との協力体制も築いている。		
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の行動、会話の中からその人の思いや希望を汲み取れるよう努めている。本人の思いや希望を大切に、自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操、水分補給等はおよその時間を決めているが、その他は本人の意思を尊重し対応している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を取入れながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立の確認をしたり、出来る範囲内でテーブル拭き等をお願いしている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや必要量を考慮し食事を提供している。バランスを考慮したメニュー作りを心がけている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。援助の必要な利用者は職員と一緒にっており、コップ、歯ブラシ等の清潔保持にも努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、安心して排泄できるよう努めている。できるだけおむつに頼らない自立にむけた支援に務めている。		
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を促している。飲食物にも考慮しながら取り組んでいる。また、医師の指導の下、薬の服用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してゆっくり休めるよう日中の活動を促している。また、薬の服用については、医師の指導の下行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作り、一人ひとりの薬の目的や副作用等を全員で理解している。服用による症状の変化等は都度、かかりつけ医に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内で洗濯たたみや新聞折り等を行っていただいている。ドライブやレクリエーションで気分転換を図ったり、水分補給時に好みの飲み物が摂れるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの庭を散歩したり、ドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している。		
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人や家族の希望でホーム管理になっているが必要に応じて買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや本人が電話をかけたいと希望する時は希望に沿って支援している。手紙のやり取りもできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気心がけ、玄関、ホールには季節の飾付けや花などで居心地よく過ごせるよう工夫している。また、清潔を保ち不快感がないよう努めている。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自由に過ごせるようソファとテーブルがあり利用者同士また職員と一緒にお茶を飲んだり思い思いに過ごせるよう居場所の工夫に務めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用した馴染みの物を使用している。利用者一人ひとりの認知症状、ADLに合わせた居室作りになっている。在宅での生活が継続できるよう工夫している。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわからない利用者には場所を表示し、混乱や失敗がないように声かけや見守りをしながら、自立した生活が送れるよう工夫している。		